



井上 浩二
議員
西条自民クラブ



小・中学校への防犯カメラの

設置に対する考えは？

問

現在、県内の小・中学校では、防犯、不審者対策として防犯カメラの設置が急速に進んでいるが、本市は整備が進んでいない。不審者の学校侵入対策を強化するためにセキュリティ設備を導入することは、学校を安全に運営する上で欠かせないと認識しているが、小・中学校への防犯カメラの設置について、どのように考えているのか。

答

小・中学校の防犯カメラの設置については、校舎内外の監視を強化し、不審者の侵入抑止や施設管理、事故発生時の状況確認などに一定の効果があるものと認識している。しかし、設置する場合には、児童・生徒のプライバシー保護や個人情報情報の適正管理、映像データの取り扱いなどについてじゅうぶんな配慮が必要となる。

現在、神戸小学校において、公民館施設との複合化による防犯カメラの設置を予定しているが、今後、ソフト面の防犯対策と併せて総合的に検討し、必要なところがあれば、1校からでも設置していきたい。



高橋 保
議員
西条自民クラブ



SNSなどによる市政や職員に対する 誹謗中傷や偽・誤情報への対応は？

問

市民が正確な情報を得られること、職員が安心して職務に専念できること、健全な批判と根拠のない中傷が区別されることが、市民と行政が互いに尊重しながら議論できる環境をつくることは、持続可能な自治体運営に欠かせない要素であるが、今後、どのように対応していくのか。

答

まずは、想定される課題の洗い出し及びその対応方法を早急に検討し、令和8年10月1日までに西条市不当要求行為等防止対策要綱の改正を完了させ、令和9年度の早い時期にカスタマーハラスメント条例を制定できるよう取り組んでいこうと考えている。また、市政に対する批判や貴重な意見は、政策の改善につながる重要な役割を果たすものであるが、一方で、デマや誹謗中傷は、職員の心理的負担を増大させ、ひいては市政の停滞を招くものである。今後は個人での対応ではなく組織として全面に立ち、毅然かつ揺るぎない意志を持って冷静に対応し、職員が安心して働ける環境づくりに努めていきたい。



三好 和彦
議員
西条自民クラブ



飼い主のいない猫の不妊去勢手術 補助事業の申請方法の見直しを！

問

飼い主のいない猫の不妊去勢手術補助事業は、現在、手術前に申請を行う事前申請方式を採用しているが、制度を利用したいタイミングで既に利用可能な申請枠がない場合がある。市民が必要ときに利用できる制度へ見直す考えはないのか。

答

現在の事前申請方式では、制度を利用しようとしても、捕獲できた時点で申請枠がない、又は、申請前に手術を行わざるをえなかったという事案が継続して見られることが課題である。

本市としては、限られた予算を適正に管理する必要がある。その一方で、本制度の本来の目的は、飼い主のいない猫の繁殖抑制と良好な生活環境の保持であることから、市民が必要ときに利用しやすく、実際の不妊去勢手術につながりやすい制度とすることが重要であると考えている。

今後は、近隣自治体の運用状況も参考にしながら、事後申請方式の導入に向けて前向きに検討したい。